

ふれあい伊曾島

伊曾島まちづくり協議会設立準備委員会 (伊曾島まちづくり拠点施設内)

TEL : 45-0002 FAX : 45-0872

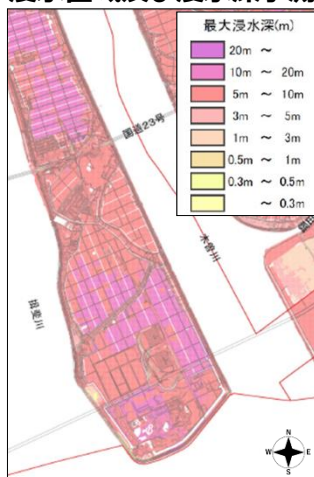
E-mail : isomatikyo@m2.cty-net.ne.jp

海拔0から死者0へ!

最大10m以上の浸水深で一週間以上! 地区外に逃げる以外の選択肢はない!

令和2年8月6日三重県より、伊勢湾沿岸の想定し得る最大規模の高潮に対する「高潮浸水想定区域図」が公表されました。公表によると長島町内で10mを超える浸水地区もあり、伊曾島まちづくり協議会設立準備委員会では、桑名市防災・危機管理課にて質疑を交わしましたので、備えのためにもご一読ください。

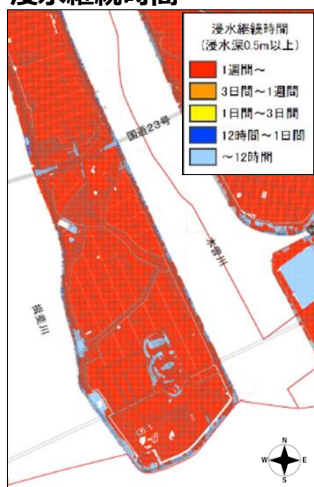
浸水区域及び浸水深予測 【会長】 三重県公表の「高潮浸水想定区域図」によると、伊曾島まちづくり拠点施設で約**5.5m**、長島町の一部では**10m**以上浸水するという想定になっていますが、どのような規模の台風だとこんな想定図になるのでしょうか?



【防災・危機管理 課長】 まず、この想定の前提条件となる台風の規模についてご説明しますと、
 ①室戸台風規模の台風 (上陸時後910ヘクトパスカルを維持)
 ②伊勢湾台風並みのスピード (毎時73km)
 ③その地域にとって最悪のコースで襲来する、という台風を想定したものです。
 このような台風が本当に来るのかと思われるかもしれませんが、**最近の気象の状況や地球温暖化による猛暑で海面温度が上昇していることを考えると起こり得る**でしょう。

【会長】 添付の2つの「高潮浸水想定区域図」を見ますと、伊曾島地区は殆どが5m以上の浸水深で一週間以上浸水が継続する想定になっていますが、単刀直入にお尋ねして、住民はどうすればいいのでしょうか?

浸水継続時間



【防災・危機管理 課長】 このような規模の台風が襲来したら、長島地区の建物はほぼすべてが2階まで浸水します。一般の住宅ではまず助かりませんので、この地区のみなさまは**長島から出て安全な場所に逃げる以外の選択肢はありません**。台風が発生し、気象庁がニュース等で「**スーパー伊勢湾台風**」「**室戸台風レベル**」などのキーワードで警戒を呼びかけた場合は避難する準備を始めてください。特に今回の想定のような高潮が発生する場合は、気象庁から「**高潮特別警報**」が早い段階で確実に発表されると聞いていますので、次のような避難対策を取っていただきますようお願いいたします。

①「気象庁が会見などで高潮特別警報の発表可能性について言及」したら、**明るい時間帯に避難勧告や避難指示**を出しますので避難を開始してください。
 ②伊曾島地区のみなさまは浸水想定区域から出て安全な場所に避難してください。市の高台のまちづくり拠点施設や小中学校、高校などを避難所として開設しますが、**収容できる人数には限りがあります**し、不特定多数の方が集まる避難所は新型コロナウイルスに感染する危険性がないとは言えません。できれば**たとえ遠方であっても、安全なところにお住まいのご親戚やご友人を頼って避難していただきたい**と考えています。車中避難を希望される方のために「**イオンモール桑名**」の**立体駐車場**を避難場所として提供いただける協定を結んでいますので、こちらをご利用いただけます。

③地区外に避難する手段がない高齢の方々等のために、このような規模の台風が襲来した場合は「**広域避難バス (三重交通)**」を運行します。この地区にお住まいの方は、伊曾島まちづくり拠点施設でバスにお乗りいただき、多度まちづくり拠点施設などに避難していただきます。

④「**高潮特別警報**」が発表されると同時にバスの運行を取りやめ、伊曾島まちづくり拠点施設は閉鎖して職員も避難します。万一のことを考え、避難が遅れた方のために伊曾島小学校の3階を緊急避難場所として開放しますが、職員はいませんし、何日も浸水し続ける可能性が高いので、目の前の**命を救うための最後の手段**としてお考え下さい。

【会長】なぜ急に今、このような想定図や避難対応になったのでしょうか？現在の木曾川堤防、揖斐・長良川堤防では、伊曾島地区は守れないのでしょうか？

【防災・危機管理 課長】ここところ、「50年に1度の」とか「これまでに例のない」といった表現が用いられる風水害が年に何度も発生しています。そのため、国が水防法を改正してこのような浸水想定図の策定が県に義務付けられました。木曾川堤防も揖斐・長良川堤防も伊曾島地区を守るために作られました。昨年度は長野県の千曲川が木曾川や揖斐・長良川の河口部と同じくらいの川幅（約1km）がある場所で決壊するなど、最近は誰もが名前を知っている有名な一級河川の堤防が次々と決壊しています。これまでの常識が通用しない、想定外のことが起こるのが今の風水害だと考えてください。

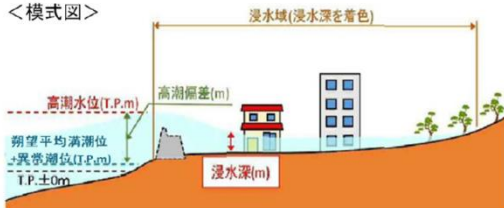
【会長】私たち特に伊曾島地区の住民に一言アドバイスをお願いしたいのですが？

【防災・危機管理 課長】伊曾島地区は日本最大級の海拔ゼロメートル地帯の一角にあり、また、木曾三川に囲まれた輪中地帯でもあります。元来、水害に極めて弱いこの地で風水害から確実に命を救うための対策は「安全な場所への避難」しかありません。市が避難勧告や避難指示を発令したら、**迷わずに逃げてください**。そして、それが毎回無駄な避難に終わったとしても、それは“素振り”だと、“練習”だと思って、何度でも繰り返し、習慣化してください。最後に避難を習慣化させるためのアドバイスです。

どんなに多くても、避難勧告や避難指示が出るのは年に数回です。
ならば、ご自身、ご家族は避難を前向きに考えられる、
“快適な避難先、避難場所”をぜひ見つけておいてください。



<模式図>



防災一口メモ 食料・飲料などを備蓄しておきましょう！

●食料・飲料などを備蓄しましょう

避難する、しないにかかわらず、電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や食料などを備蓄しておきましょう。また、自宅が被災した場合のことを考慮し、非常用持ち出し袋を人数分用意して持ち出せるようにしておくことで安心です。

●必ず用意しておくもの

飲料水・非常食（3日以上、1週間分が望ましい）、常備薬、小銭など

●用意しておく便利なもの

携帯ラジオ、懐中電灯、充電電池、燃料（卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料）、日用品（トイレットペーパー、タオル、生理用品、ウェットティッシュ、歯ブラシなど）、医療品（絆創膏、傷薬、包帯、風邪薬、胃腸薬など）、毛布、ポリタンク、アウトドア用品、めがね、入れ歯など

●乳幼児がいる家庭で用意しておくもの

ほ乳ビン、ミルク、オムツ、おしりふきなど

◀編集後記▶

今回のふれあい伊曾島は、「高潮浸水想定区域図」が三重県から公表された事を受け、臨時号として発行させていただきました。近年増えている異常気象とみられる、夏季の異常高温やゲリラ豪雨、台風に限らず、大きな自然災害が全国的に増加傾向にあるように感じます。また、懸念されている南海トラフ巨大地震など、いつ自然災害がこの伊曾島地区を襲ってくるかわかりません。いざと言う時に迷うことなく動きが取れるように、家族や友人知人とも会話をしておく事も命を守るためには重要な事ではないでしょうか・・・